

学生の確保の見通し等を記載した書類

神戸大学 システム情報学部

目 次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	3
(1)	学生確保の見通し	3
(ア)	定員充足の見込み	3
(イ)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
	＜過去の入学状況に基づく推測結果＞	3
	＜オープンキャンパスでのアンケート調査＞	3
	＜高等学校生徒へのオンラインアンケート調査＞	4
	＜高等学校進路指導教員へのオンラインアンケート調査＞	5
	＜学生納付金の設定の考え方＞	5
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2	人材需要の動向等社会の要請	7
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	7
(2)	上記（1）が社会的、地域的人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	7
(ア)	社会的、地域的人材需要の動向と必要性	7
(イ)	人材需要の根拠となる客観的なデータの概要	8

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

(ア) 定員充足の見込み

システム情報学部（以下「本学部」という。）の入学定員は150人、編入学定員（3年次）は3人、収容定員は606人である。本学部の母体となる工学部情報知能工学科（入学定員107人。以下「情報知能工学科」という。）における過去5年間の入学志願倍率は、一般選抜の前期日程が3.6倍、後期日程が17.2倍と高倍率であり、受験生からの関心は恒常的に非常に高いと言える。また、編入学試験における直近3年（令和4年度から令和6年度入試）の高等専門学校からの平均志願者数は、16.7人である。

この受験生からの高い人気を継続的に保つことができることを考慮すれば、本学部も定員を充足する見込みが非常に高い。

(イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

<過去の入学状況に基づく推測結果>

本学部の母体となる情報知能工学科における過去10年間の入学状況を【資料1】に示す。一般選抜（前期日程・後期日程）及び総合型選抜である「志」特別選抜のそれぞれにおける合格者数を棒グラフとして表し、定員に対する志願者倍率を折線グラフで示してある。オレンジ色の折線グラフから、情報知能工学科の志願者倍率は前期日程と後期日程合わせて4.2～6.6倍であり、前期日程だけで見ると黄色の折れ線グラフで示されるように2.3～4.6倍であることがわかる。いずれも高い志願倍率で推移しており、これまでの傾向を考慮すると今後も長期にわたり学生を確保できることが予想される。

また、過去5年間の入試点数データを基に、入学後の教育に支障が生じない範囲の入学者数を検討した結果、入学定員を現状の107人よりも43人増員とし、150人とした場合でも合格者の学力差（得点の分散）が現状と同程度であることから、入学後の教育に支障はなく、質を低下させずに学生の確保が可能であると判断する。

<オープンキャンパスでのアンケート調査>

上記の分析は、過去の入学状況に基づく推測結果を示すものであるが、より客観的なニーズ分析を行うため、令和5年8月5日に神戸大学（以下「本学」という。）で開催したオープンキャンパスの情報知能工学科の説明時に、本学部の新設に関するアンケート調査【資料4】を実施した。アンケートにおいてさまざまな質問を用意し、それらに回答していただいた（回収率は約9割）が、特に

Q5 [あなたは、神戸大学システム情報学部を受験してみたいと思いますか。]
Q6 [あなたは、神戸大学システム情報学部に合格したら、併願校よりもシステム情報学部に入りたいと思いますか。]

という2つの質問に対しては、それぞれ76件のうちの94.7%、及び72件のうちの93.1%から肯定的な回答を得ることができた。オープンキャンパスにおいて情報知能工学科の見学を希望する高校生が300人以上いたこと自体が情報知能工学科の注目度が非常に高いことを示しており、情報知能工学科が独立して新学部になることに関するアンケート調査の結果をみても、90%以上の多くの者が本学部を進学先として志望していることが示された。これらのことから、学生定員が150人に増員されても学生の確保ができると予想される。

<高等学校 生徒へのオンラインアンケート調査>

令和6年1月11日から2月14日にかけて、前身となる情報知能工学科を過去5年間に受験した者が6人以上いる高等学校及び工学部から出前講義や特別講義を実施した高等学校を合わせた114校と、神戸市・兵庫県を中心とした地域にある主要な女子高等学校及び男女共学の高等学校を合わせた260校に対して、高校2年生及び1年生を対象としたアンケート調査をオンラインで実施し、4,056件の回答を得た。

【資料2】

回答結果によると、「国公立大学への進学を検討している、または希望するか」という問いに対し、肯定的な回答をした高校生は全体の83.4%(3,382人)であり、大多数が国公立大学志望であることがわかった。「高校卒業後に学びたいと考えている興味のある学問分野」については、「システム情報学、情報知能工学」と回答した高校生は544名であった。また、システム情報学部の4つの特徴である「入学後すぐに専門科目を学修」、「早期研究室配属・早期卒業可能なプログラム」、「大学院生と一緒に研究プロジェクトを実践」、「数学、情報の教職免許取得」に対しては、「とても魅力がある」及び「ある程度魅力がある」と回答した高校生は、それぞれ69.8%、81.6%、77.3%、78.9%と非常に関心度が高いことが明らかになった。次に、「システム情報学部への受験を希望するか」という問いに対しては、724人が受験希望と回答した。この中には、「工学（電気通信工学）」や「工学（機械工学）」を第一志望とするが、システム情報学を併願として考える高校生も含まれる。さらに、「システム情報学部を受験して合格した場合に入学を希望するか」という質問には、562人(724人のうちの77.6%)が入学希望と回答した。この入学希望数は、学生定員である150人の約3.7倍の数であり、多くの高校生が本学部を進学先として興味を持っていることを示している。

このアンケート結果から、本学部の設置の趣旨は、高校生からのニーズを十分に満

たしているものと判断でき、学生定員が 150 人に増員されても十分学生の確保ができることを裏付けることができる。

<高等学校 進路指導教員へのオンラインアンケート調査>

同じく令和 6 年 1 月 11 日から 2 月 14 日にかけて、前身となる情報知能工学科を過去 5 年間に受験した者が 6 人以上いる高等学校及び工学部から出前講義や特別講義を実施した高等学校を合わせた 114 校と、神戸市・兵庫県を中心とした地域にある主要な女子高等学校及び男女共学の高等学校を合わせた 260 校に対して、進路指導教員を対象としたアンケート調査をオンラインで実施し、51 件の回答を得た。

【資料 3】

本学部の 4 つの特徴である「入学後すぐに専門科目を学修」、「早期研究室配属・早期卒業可能なプログラム」、「大学院生と一緒に研究プロジェクトを実践」、「数学、情報の教職免許取得」に対しては、「とても魅力がある」及び「ある程度魅力がある」と回答した教員はそれぞれ 98.0%、94.1%、98.1%、88.2%と非常に関心度が高いことがわかり、本学部が目指す教育について多くの高等学校の教員が高い関心と期待を持っていることが明らかとなった。最後に「システム情報学部が設置された場合、受験生に進学を勧めたいか」との質問に対し、92.2%の教員が「ぜひ勧めたい」又は「候補として検討したい」と回答している。

なお、本学部の特別選抜における「学校推薦型選抜（女子枠）」については、「とても興味がある」及び「ある程度興味がある」合わせて 80.5%の教員が興味を示しており、また、33.3%の教員は「学校推薦型選抜（女子枠）」に推薦したい女子生徒がいるか」という質問に対して肯定的な回答をした。

これらのアンケート回答結果から、本学部の教育に対し、高等学校の進路指導教員から高い評価がなされていることは明らかであり、本学部の設置の趣旨は、高校生だけではなく、高等学校からのニーズも十分に満たしているものといえる。

<学生納付金の設定の考え方>

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に基づき、「神戸大学における授業料、入学料、検定料及び寄宿料の額に関する規程」により設定している。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学部は、学生の確保に向けて、高校生やその保護者、高等学校等に本学部で行う教育の特色や養成しようとする人材等について理解をしてもらうために、積極的に広報活動を行っている。

具体的には、令和 5 年 8 月 5 日に開催した本学のオープンキャンパスにおいて、工

学部の紹介及び見学に参加した高校生（249人）に新学部設置計画に関するチラシを配布するとともに、学長及びシステム情報学部設置準備委員会委員長による本学部設置説明会を行った。加えて、説明会終了後に、情報知能工学科に興味や関心を持つ高校生や保護者に対してオンラインサイトを用いた本学部に関するアンケート調査も実施した。【資料4】

また、同年8月17日の神戸大学学長記者会見において本学部の設置構想について公表し、その内容は当日夕方のNHKニュースや各社新聞でも取り上げられた。同年11月11日に開催した神戸大学祭「六甲祭」の入試説明会（本学入試課主催）において、システム情報学部設置準備委員会委員長による本学部の説明を行い、その後、説明会に参加した高校生や保護者と質疑応答を行った。並行して、毎年秋以降に定期的に各地で開催されている予備校主催の高等学校進路指導教員向けの入試説明会において、本学入試課から本学部の設置と入学者選抜方法についての説明を実施している。さらに、ラジオ関西（兵庫県を放送対象地域とする放送局）の毎週日曜日の朝に放送されている「神戸大学☆夢ラボ」（本学の教員や学生が出演し、SDGsと地域連携を大きなテーマに掲げ、本学の持つ「知」を広く情報発信していく番組）においてパーソナリティとのインタビュー形式でシステム情報学部設置準備委員会委員長が本学部の紹介を行った。

各高等学校へのPRとしては、上述した高等学校へのアンケート調査に対して、本学部説明リーフレットや関連資料のサイト情報を送付したが、今後、特にこれまで情報知能工学科へ入学した学生が多い高等学校については、電話や訪問等により進路指導担当教員への本学部の教育課程の特色や入学者選抜方法等について説明するとともに進路指導担当教員等からの質問にも対応していく予定である。また、本学部の特別選抜では、学校推薦型選抜（女子枠）を設けるため、特に男女共学の高等学校や女子高等学校の進路指導担当教員には、学校推薦型選抜（女子枠）を設ける趣旨や選抜方法等を丁寧に説明し、優秀な女子学生の積極的な推薦を依頼する予定である。令和6年度は、入学者選抜に関する説明会を複数回開催し、受験者に対する本学部のPRを更に進めていく予定である。

また、本学で実施しているJSTグローバルサイエンスキャンパス(GSC)のROOTプログラム（科学の分野で強い好奇心・探究心を持った高校生等が、将来国際的に活躍できる科学者や技術者を目指して大きく成長してゆくための教育プログラム）に参加している卓越した意欲・能力を有する高校生に対して、本学部の紹介を積極的に行うとともに、関西圏で実施されているJST次世代科学技術チャレンジプログラム（初等中等教育段階において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力等の更なる伸長を図る多様な育成プログラム）に参加する高校生に対しても本学部の紹介を行っていく予定である。その他、科学オリンピック、プログラムコンテスト、数学オリンピックなどの優秀な理系高校生が集う地区予選等にパンフレットやポスターを掲載することも視野に入れている。

以上のような取り組みをベースに、令和6年4月以降も引き続き、本学部の設置の

趣旨や特色等について説明する機会を数多く設け、学生の確保に向けた取組を進めていく。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学部は、システムの解析・統合、情報の創出・処理・利用、計算の高度化及び応用等、システム情報学に関する専門性及び学際性を重視した教育研究を行い、世界の現状並びに問題に関する知識及び理解力を持ち、システム情報学における各専門領域の知識及び技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることにより、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(ア) 社会的、地域的な人材需要の動向と必要性

我が国では、生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められている一方、デジタル・グリーン等の成長分野の人材不足が顕著で、理工系の学生割合も諸外国に比べて低い状況にあり、これらの分野をけん引する高度人材の育成、輩出を担う大学及び高等専門学校の機能強化は喫緊の課題である。

経済産業省委託事業(IT人材育成支援のための調査分析事業)「IT人材需給に関する調査」(2019.3)によると、2030年に最大でIT人材が79万人不足、及びAI人材が12万人不足するという調査結果が得られている。【資料5】

また、単にデータを扱う人材数の不足だけでなく、ITやAIについての高度な知識と技術を持ち合わせ、ITやAIをどのように応用利用し社会に役立てていくかを立案しそれを実現するための指導的立場を担う高度情報専門人材が不足することも課題としてあげられている。並行して、ITやAI人材を育成する指導者不足も課題である。2022年度に高校必修科目「情報I」及び選択科目「情報II」が新設されたが、これらの科目を教えることのできる教員免許を持つ教員が全国的に不足している。また、朝日新聞(令和5年12月27日朝刊)によると、免許を持つ教員の配置が少ない自治体など、教える態勢の地域格差は問題となっており、情報の教員免許を持つ教員の育成が急務である。一方で、データサイエンスやIT、AIを必要とする社会人のためのリスキリング・リカレント教育の需要も増加してきており、質の高いIT人材育成が喫緊の課題となっている。

一方、採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」(2020年3月31日)では、「Society 5.0にお

いては、AI やデジタル技術、ビッグデータを人間の能力の補助として活用し、論理的思考力と規範的判断力を基盤として、社会の多様な課題やニーズを読み取り、それらを解決するシナリオを設計する豊かな『想像力』と、それを現実のものとする『創造力』が強く求められる」と指摘しており、課題発見・解決力や未来社会の構想・設計力も合わせて求められている。【資料6】

また、これらの力を育成するためには個々の専門知だけでなく、それらを俯瞰的な立場から組み合わせ融合させることのできる「総合知」という考え方が重要になる。

『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ（令和4年3月17日 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局）において、多様な「知」が集い、新たな価値を創造する「知の活力」を生むことが総合知であり、これを推し進めることが科学技術・イノベーションの力を高めることにつながると記されている。【資料7】

情報分野においては、IT や AI に関連する各要素技術を専門知と呼ぶ一方で、それらを俯瞰的に組み合わせることにより、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献する知を総合知と位置付け、専門知を究める一方で総合知の観点から社会の発展に寄与できる人材の育成が求められている。

（イ）人材需要の根拠となる客観的なデータの概要

情報知能工学科の卒業生の約80%は大学院システム情報学研究科（以下「研究科」という。）に進学する。一方、折れ線グラフで示すように、求人数は毎年270件以上あり、学校推薦枠も学部修士合わせると毎年140件以上ある。【資料8】

このことからわかるように、情報知能工学科及び研究科の卒業生を求める企業は非常に多く、ますますIT人材の需要が高まる状況に鑑みると今後もこの求人傾向が続くと考える。

一方、令和5年度システム情報学研究科（本学部を基礎とする研究科）の改組（3専攻を1専攻）に先駆けて企業アンケート調査を実施した。【資料9】

本アンケートは令和4年3月に実施し、52社の回答を得た。特に総合知に関連する設問は以下のとおりである。

【問3】一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。
(俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力)

【問4】【問3】で、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答された方にお聞きします。必要と感じる学生の能力について、特に重要と考えるものを以下の中で3つまで選択してください。

問3「一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。(俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力)」という設問は、専門知に加え総合知の習得の必要性に関するものであり、この設問に対し「非常に必要性を感じる」、「必要性を感じる」と回答したのは全体の98%(51社)であった。問4の、特に必要と感じる学生の能力について、「課題発見力」(35社)、「問題解決能力」(35社)などが選択された。企業においては、専門能力に加えて課題発見力や問題解決能力を持つ人材が必要とされていることが示唆された。

なお、自由記述では以下のようなコメントがあった。

- どのような学問にもシステム情報の知識が必要になりつつあることは業務を通しても感じている。社内研修でも全社員にシステム情報系の研修を受講することを推奨している。学生時代から慣れ親しむと社会人になってから柔軟に適用できるのではと感じた。
- 弊社も現在、DXに注力し、社内体制を一新しました。今後グローバルに戦っていくためにはこのような力が必須かと思えます。優秀な学生さんを輩出されることを期待しております。
- 今後の企業活動として、欠かせない知識分野となるので、専門性を備えた学生を育てていただきたい。
- AIやデータサイエンスの活用により、社会を変革していく人材を多く育成していただき、弊社にも入社していただけることを期待しています。ビジネスの現場では、技術力が高いだけでなく、ビジネス課題を引き出しAI・データサイエンスの問題に落とし込みDXを実行できる人材が求められています。弊社としてもインターンシップ等を活用して、国内の大学とは連携を図ろうとしているところもあり、今後のカリキュラム変更と人材育成に関して、期待するところが大です。
- 自動車業界のCASEの実現のため人材育成に期待いたします。
- これまでの専門性を保持した上で、複眼的視野を有する人材養成ということで非常に興味深い内容でした。卒業生が当社に限らず社会でご活躍されることを祈念しております。

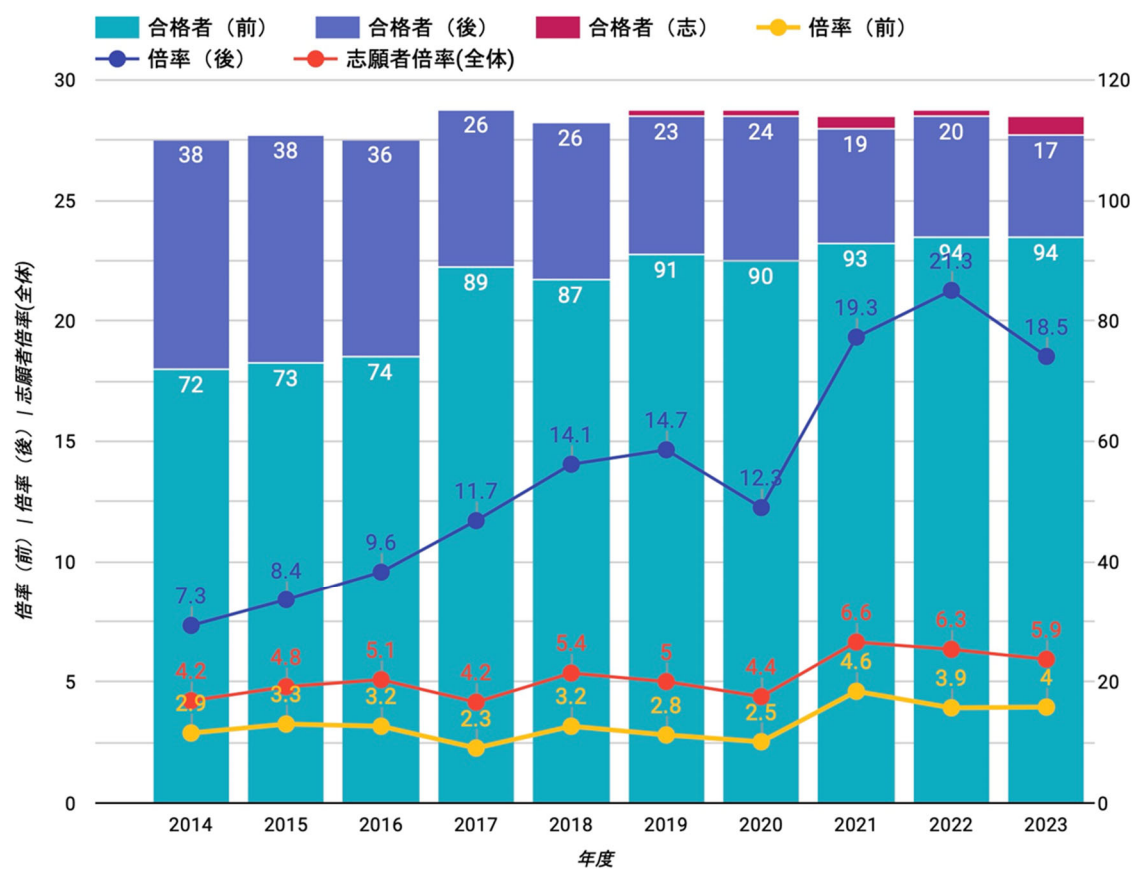
アンケート回答の自由記述からも、システム情報学における各専門領域の知識及び技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることにより、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる人材の育成が切望されていることが明らかとなった。

このことから、本学部が掲げる人材の養成像及び教育研究上の目的は、社会からの要請に基づくものとなっている。

資料目次

資料 1	工学部情報知能工学科における過去 10 年間の入学志願状況	2
資料 2	高校生対象アンケート結果	3
資料 3	高等学校進路指導教員対象アンケート結果	6
資料 4	オープンキャンパスの工学部情報知能工学科の説明時に実施したシステム情報学部新設に関するアンケート調査結果	9
資料 5	経済産業省委託事業(IT人材育成支援のための調査分析事業) 「－IT人材需給に関する調査－調査報告書」 (2019年3月, みずほ情報総研株式会社)	17
資料 6	採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書 「Society 5.0 に向けた大学教育と採用に関する考え方」 (2020年3月31日)	18
資料 7	『『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間取りまとめ」(令和4年3月17日 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局)	19
資料 8	過去6年間の工学部情報知能工学科卒業生の動向と 企業求人数・学校推薦枠数等	21
資料 9	令和5年度システム情報学研究科(システム情報学部を基礎) 改組(一専攻)に先駆けて行った企業アンケート調査	22

【資料 1】



入学年度	合格者総数	合格者(前期)	合格者(後期)	合格者(志)	志願者倍率(全体)	志願者倍率(前期)	志願者倍率(後期)	入学者総数
2014	110	72	38		4.22	2.89	7.33	105
2015	111	73	38		4.8	3.26	8.4	105
2016	110	74	36		5.09	3.17	9.57	103
2017	116	89	26		4.16	2.27	11.71	112
2018	113	87	26		5.36	3.17	14.05	107
2019	115	91	23	1	5.01	2.81	14.65	107
2020	115	90	24	1	4.39	2.53	12.25	107
2021	114	93	19	2	6.64	4.61	19.33	111
2022	115	94	20	1	6.34	3.93	21.27	107
2023	111	94	17	3	5.93	3.96	18.53	108

【資料 2】

○高校生対象アンケート結果

前身となる「工学部情報知能工学科」に過去 5 年間で合計 6 名以上の受験者がいる高等学校及び工学部から出前講義や特別講義を実施した高等学校を合わせた 114 校と、神戸市・兵庫県を中心とした地域にある主要な女子高等学校及び男女共学の高等学校を合わせた 260 校に対し、オンラインアンケート調査を依頼（対象：高校 1, 2 年生）。

【対象高校】 260 校

【回答人数】 4,056 名

内訳 高校 1 年生 48%, 高校 2 年生 52% (女子は全体の 54%)
兵庫 72%, 大阪 10%, 京都 5%, 石川 8%
公立（県立、府立、市立など）68%, 私立 26%

【集計結果】

問 1：あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目のうち、現在検討している（希望している）進路をすべて選択してください。（複数選択可）

回答：

国公立大学に進学	3,382 人
私立大学に進学	1,771 人
専門学校・専修学校に進学	194 人
短期大学に進学	72 人
専門職大学・専門職短期大学に進学	76 人
就職	68 人
その他	9 人

問 2：高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

回答：

システム情報学・情報知能工学	544 人
工学（電気通信工学）	419 人
工学（機械工学）	487 人
工学（土木建築工学）	357 人
工学（応用化学）	321 人
工学（その他）	167 人
理学	549 人
農学	426 人

保健	972 人
教育	548 人
社会科学 (法学、政治学、経済学など)	1,059 人
人文科学 (文学、史学、哲学)	634 人

問3：神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、どの程度魅力を感じますか。（それぞれ、一つを選択）

問3-1：入学後すぐにシステム情報学に関する専門科目（情報基礎を含む）を学べる。専門的知識をしっかりと身につけた上で、目的意識を持って教養科目を学修するカリキュラムである。

回答：

とても魅力を感じる	20.9%
ある程度魅力を感じる	48.9%
あまり魅力を感じない	22.5%
全く魅力を感じない	7.8%

問3-2：優秀な学生を対象として、早期研究室配属・早期卒業できるカリキュラムである。学部入学から最短3年で卒業可能であり、また学部入学から最短6年間で博士の学位の取得が可能である。

回答：

とても魅力を感じる	37.8%
ある程度魅力を感じる	43.8%
あまり魅力を感じない	12.9%
全く魅力を感じない	5.6%

問3-3：大学院生と一緒に研究プロジェクトを実践できる。社会環境や社会ニーズに応じて設定される各研究プロジェクト(C³研究プロジェクト)に3年次に参加し、専門性の異なる教員や大学院生と議論しながら、システム情報学の専門知識や技術を使って研究課題の発見や基礎調査に取り組むことができる。

回答：

とても魅力を感じる	34.4%
ある程度魅力を感じる	42.9%
あまり魅力を感じない	14.9%
全く魅力を感じない	5.5%

問3-4：希望者は、高等学校一種免許状（情報、数学）、中学校一種免許状（数学）の取

得が可能である。

回答：

とても魅力を感じる	36.0%
ある程度魅力を感じる	42.9%
あまり魅力を感じない	14.9%
全く魅力を感じない	6.1%

問4：「システム情報学」と聞いて具体的にはどのようなことをイメージしますか。

回答：(代表的なもの)

プログラミング	データサイエンス	AI, 人工知能	ロボティクス
ビッグデータ	セキュリティ	メタバース	アルゴリズム
ゲーム	Web	機械学習	サーバー

問5：あなたは、神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。

回答：

受験したいと思う	724 人 (17.9%)
受験したいと思わない	3,332 人 (82.1%)

問6：あなたは、神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）に合格した場合、併願校よりもシステム情報学部に入りたいと思いますか。

回答：

入学したいと思う	562 人 (77.6%)
入学したいと思わない	162 人 (22.4%)

【資料 3】

○高等学校進路指導教員対象アンケート結果

前身となる「工学部情報知能工学科」に過去 5 年間で合計 6 名以上の受験者がいる高等学校及び工学部から出前講義や特別講義を実施した高等学校を合わせた 114 校と、神戸市・兵庫県を中心とした地域にある主要な女子高等学校及び男女共学の高等学校を合わせた 260 校に対し、オンラインアンケート調査を依頼。

【対象高校】 260 校

○回答人数 51 名

兵庫 43%, 大阪 20%, 奈良 11%, 京都 10%,
徳島 6%, 和歌山 6% 石川 4%
公立（県立、府立、市立など）53%, 私立 43%, 国立 4%

【集計結果】

問 1：神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、どの程度魅力を感じますか。（それぞれ、一つを選択）

問 1-1：入学後すぐにシステム情報学に関する専門科目（情報基礎を含む）を学べる。専門的知識をしっかりと身につけた上で、目的意識を持って教養科目を学修するカリキュラムである。

回答：

とても魅力を感じる	52.9%
ある程度魅力を感じる	45.1%
あまり魅力を感じない	0%
全く魅力を感じない	2%

問 1-2：優秀な学生を対象として、早期研究室配属・早期卒業できるカリキュラムである。学部入学から最短 3 年で卒業可能であり、また学部入学から最短 6 年間で博士の学位の取得が可能である。

回答：

とても魅力を感じる	64.7%
ある程度魅力を感じる	29.4%
あまり魅力を感じない	3.9%
全く魅力を感じない	2%

問 1-3：大学院生と一緒に研究プロジェクトを実践できる。社会環境や社会ニーズに応じ

て設定される各研究プロジェクト(C³研究プロジェクト)に3年次に参加し、専門性の異なる教員や大学院生と議論しながら、システム情報学の専門知識や技術を使って研究課題の発見や基礎調査に取り組むことができる。

回答：

とても魅力を感じる	82.4%
ある程度魅力を感じる	15.7%
あまり魅力を感じない	0%
全く魅力を感じない	2%

問1－4：希望者は、高等学校一種免許状（情報、数学）、中学校一種免許状（数学）の取得が可能である。

回答：

とても魅力を感じる	43.1%
ある程度魅力を感じる	45.1%
あまり魅力を感じない	9.8%
全く魅力を感じない	2%

問2：「システム情報学」と聞いて具体的にはどのようなことをイメージしますか。

回答：AI、データサイエンス、プログラミング など

問3：神戸大学に新学部「システム情報学部」（仮称）が設置された場合、生徒に進学を勧めたいと思いますか。

回答：

ぜひ勧めたい	27.5%
候補として勧めたい	64.7%
勧めようと思わない	2%
わからない	5.9%

問4：生徒の進路指導の際に、重視されていることを次の中からお答えください。（複数選択可）

回答：回答が多かったもの

教育プログラム	国立、公立、私立	卒業後の進路	専門分野
入試科目	大学・学部の偏差値	大学の所在地	取得できる資格・免許

問5：新学部では、神戸大学で初めて「学校推薦型選抜（女子枠）」を設置します。こちらの入試方法についてお聞きします。

問5-1：貴校は男子校ですか。

回答：

はい	9.8%
いいえ	90.2%

5-2：新学部における「学校推薦型選抜（女子枠）」にどの程度興味がありますか。

回答：

とても興味がある	45.7%
ある程度興味がある	34.8%
あまり興味がない	13.0%
全く興味がない	6.5%

5-3：学校推薦型選抜（女子枠）に推薦したい女子生徒はいますか。

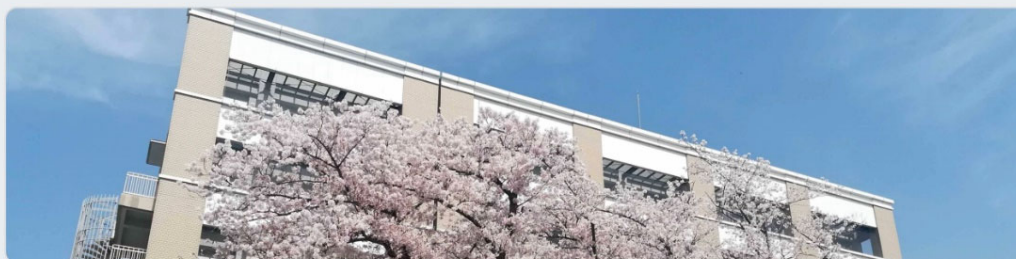
回答：

いる	33.3%
いない	4.4%
わからない	62.2%

問6：新学部「システム情報学部」（仮称）について、ご意見やご感想がありましたらお聞かせください。

回答：

多様な学生をどうやって確保なさるのかに、興味がある。
高校履修の情報Ⅰや情報Ⅱは入試等にどの程度影響があるのか気になる。
情報知能工学科の研究内容がどのような形で実社会で機能しているかの具体例があると高校生は興味をより持ってくれる。
生徒集めの文理融合ではなく、理系に特化しているので魅力的。途中で文系枠を採用しないで頂きたい。
生徒・保護者や教員が「システム情報学部」について詳しく知ることができる機会を設けてほしい。（申込／参加がしやすいオープンキャンパス、教員対象説明会、可能であれば高校での説明）



国立大学法人 神戸大学システム情報学部 (仮称、設置構想中) に関するアンケート

84 件の回答

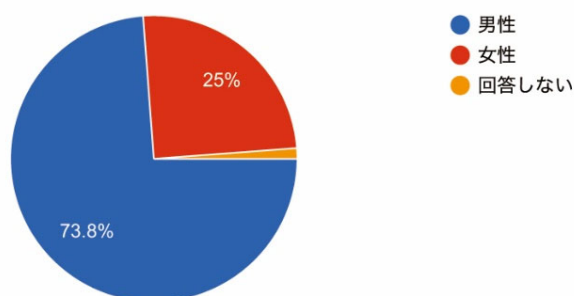
[分析を公開](#)

あなた自身についてお聞きします。

性別 (一つを選択)

コピー

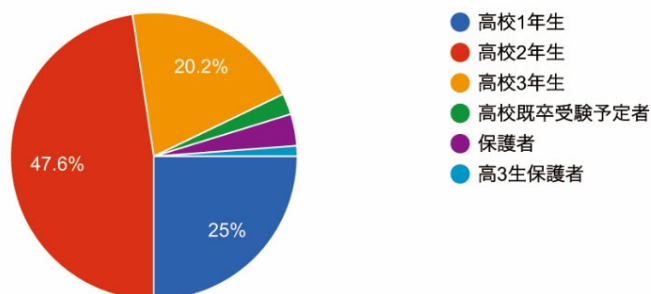
84 件の回答



学年 (一つを選択、その他の場合は、保護者、中学生など、具体的に記入願います)

コピー

84 件の回答



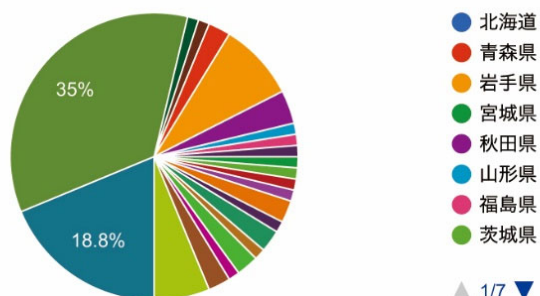
高校についてお聞きします。



所在地（都道府県）（通信制の場合は「通信制」を海外の場合は「海外」を選択）（一つを選択）



80 件の回答

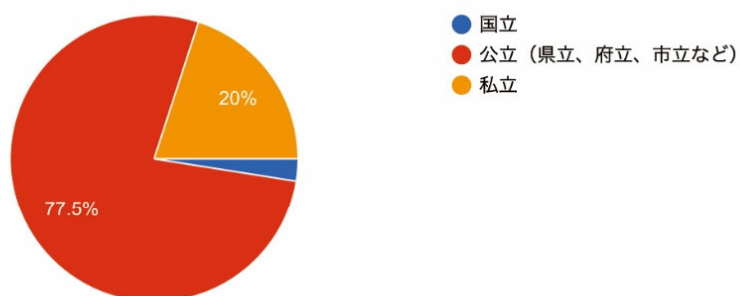


▲ 1/7 ▼

学校の所管（一つを選択）



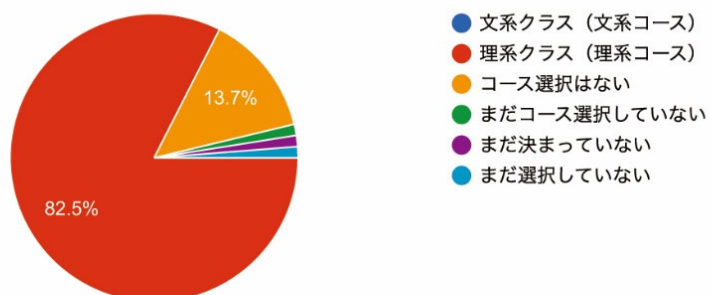
80 件の回答



所属クラス（一つを選択）



80 件の回答



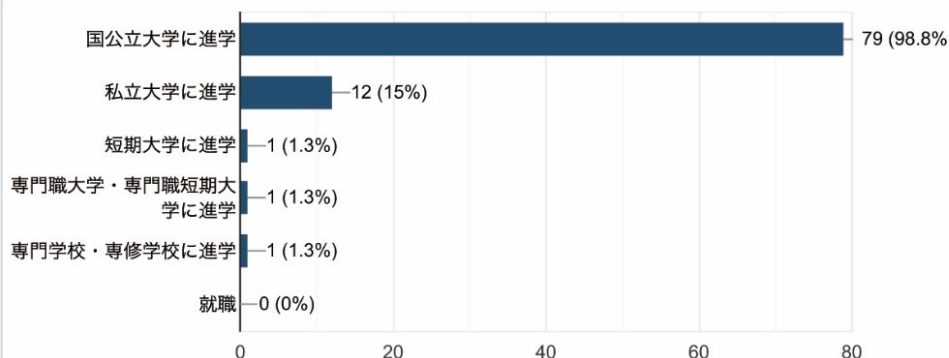
高校卒業後の進路についてお尋ねします。



Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目のうち、現在検討している（希望している）進路をすべて選択してください。（いくつでも）



80 件の回答

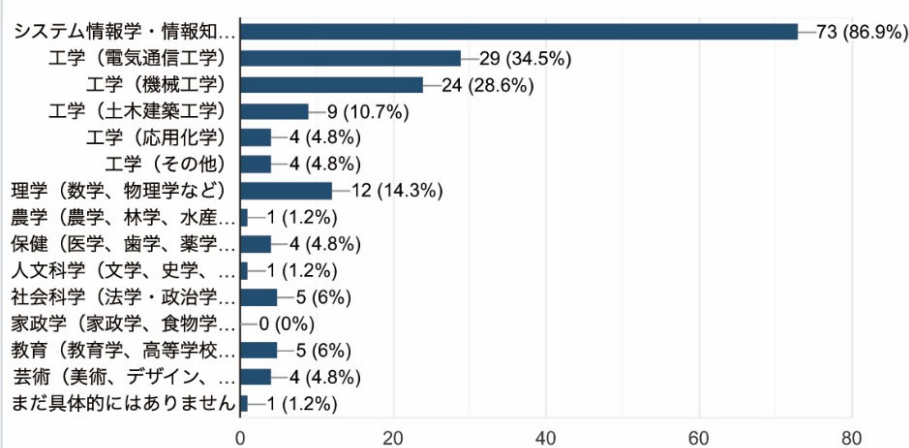


Q2. 興味のある学びについてお聞きします。

Q2-1. 大学で学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）（現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。）



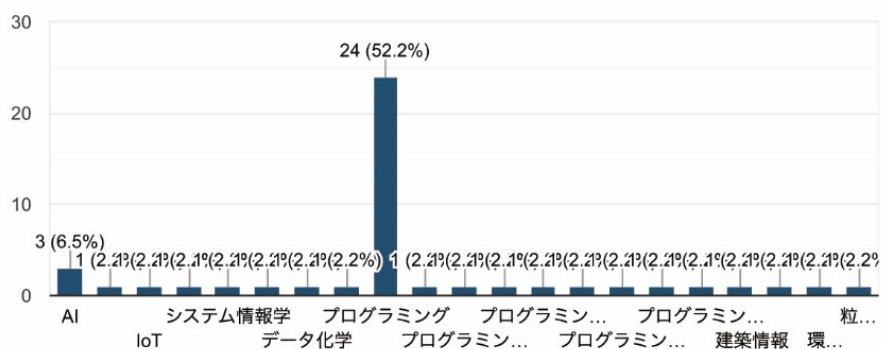
84 件の回答



Q2-2. システム情報学・情報知能学を選んだ方にお聞きします。（選ばなかった方は次にお進みください。）

具体的にどのようなことを学んでみたいですか。例えば、データ科学、プログラミング、ロボティクスなど、思いつくキーワードがあればご記入ください。（任意）

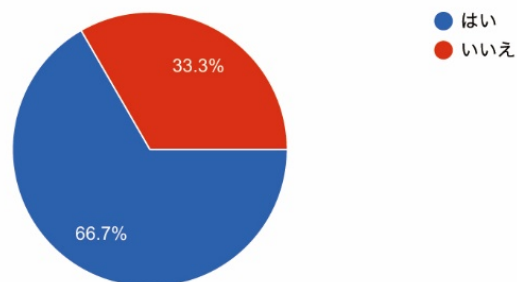
46 件の回答



神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）についてお聞きします。

新学部説明会（8月5日（土）開催）に参加されましたか。（一つを選択）

84 件の回答



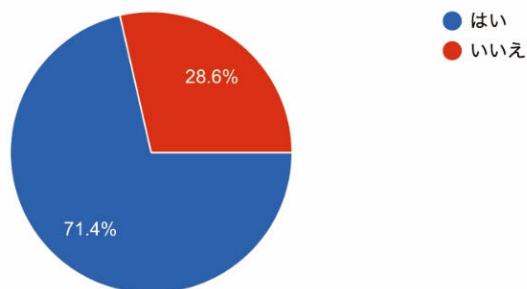
新学部説明会に参加されていない方にお聞きします。



当日の配布資料（[ここ](#)）にお目通しいただきましたか。

 コピー

28 件の回答

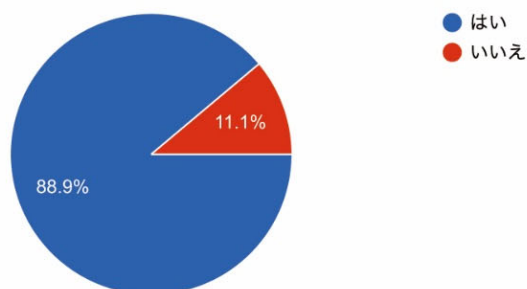


当日の配布資料（[ここ](#)）にまだ目を通してない方にお聞きます。

アンケートを終了しますか。

 コピー

9 件の回答



Q3. 神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、一つを選択）

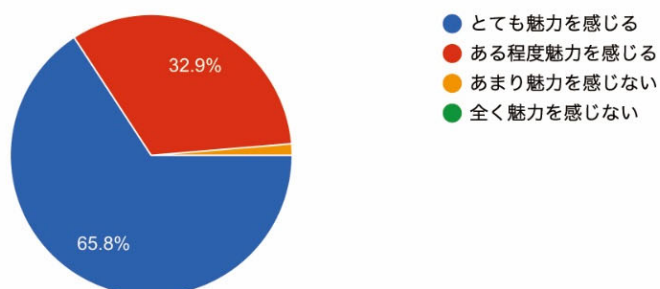
Q3-1. 入学後すぐに情報基礎を勉強し、その後、様々な専門科目を学び、専門的知識をしっかりと身につけた上で、目的意識を持って教養について学修する反転教養教育カリキュラムである。

 コ

 ピ

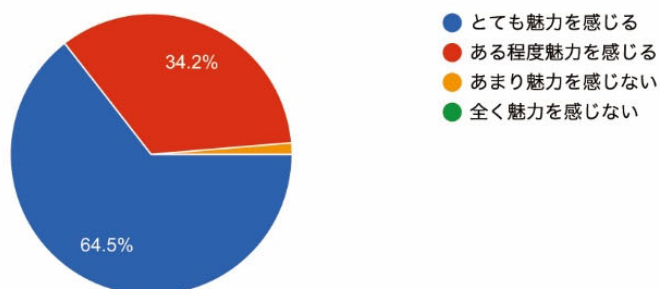
—

76 件の回答



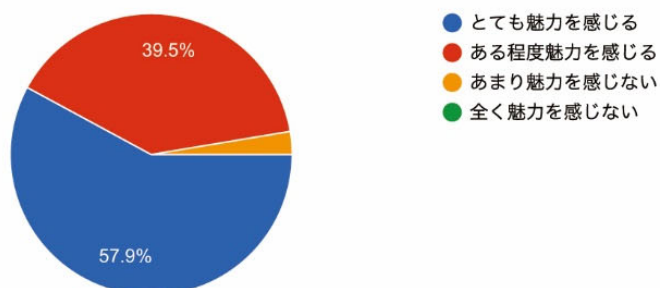
Q3-2. 優秀な学生を対象として、早期研究室配属・早期卒業できるカリキュラムである。学部入学から最短3年で卒業可能であり、また学部入学から最短6年間で博士の学位の取得が可能である。

76 件の回答



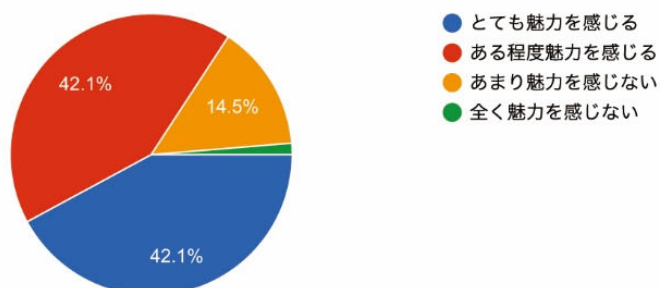
Q3-3. 俯瞰的な視野を持ち、様々な専門的知識や技術を組み合わせて課題解決や価値創造を行う能力を身につける総合知教育を受けることができる。

76 件の回答



Q3-4. 希望者は、高等学校教諭一種（情報、数学）、中学校教諭一種（数学）の免許状の取得が可能である。

76 件の回答



「システム情報学」と聞いてイメージすることについてお聞きします。



Q4. 具体的にはどのようなことをイメージしますか。よろしければ、感想のようなものでも構いませんのでご記入ください。（任意）

21 件の回答

プログラミング

幅広く物事を学べる

学生の方々の雰囲気が良い、気軽に声をかけることができたところ。

コンピュータ

コンピュータ系

シミュレーションやAIなど

具体的にイメージできないです

女子枠って要ります？その学問を学びたいという志に性別って関係なくないですか。

これからの社会に役立つ

情報系の学習ができる

コンピューターを用いて専門的なことをする

システムを作る

システムを構築していく

従来の情報知能工学科よりも忙しくなりそうで学生により負担がかかりそう。早期卒業に関して、いい制度ではあると思うが実際に行う生徒は少ない気がする。

データサイエンス

AI管理やシステムエンジニア

情報の仕組みについて

あるシステム詳しい情報(プログラム等)を解析したり、実際に作ることに関する学び

最先端技術、今後世界中心的な学び

システム関係に携える人を増やすという目的においては、とても魅力的で、素晴らしい案だと思います。

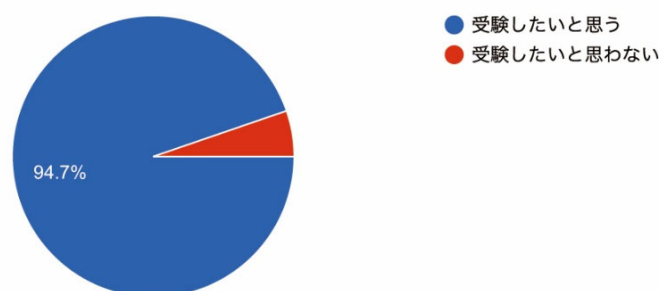


システム情報学とは、物事の根拠をはっきりとさせる一つの方法であるように思いました。今回の講演会でとてもこの分野に興味が湧きました。大変貴重なお話ありがとうございました。

受験についてお聞きます。

Q5. あなたは、神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方を選んでください。（一つを選択）

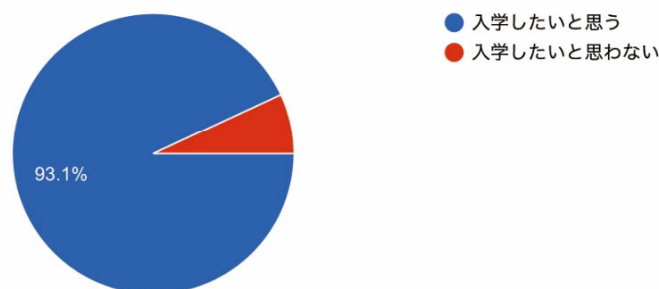
76 件の回答



入学したいかどうかについてお聞きます。

Q6. あなたは、神戸大学 システム情報学部（仮称、設置構想中）に合格したら、併願校よりもシステム情報学部に入りたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方を選んでください。（一つを選択）

72 件の回答



質問は以上です。送信ボタンを押して終了してください。ご協力ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシーポリシー

Google フォーム



【資料5】

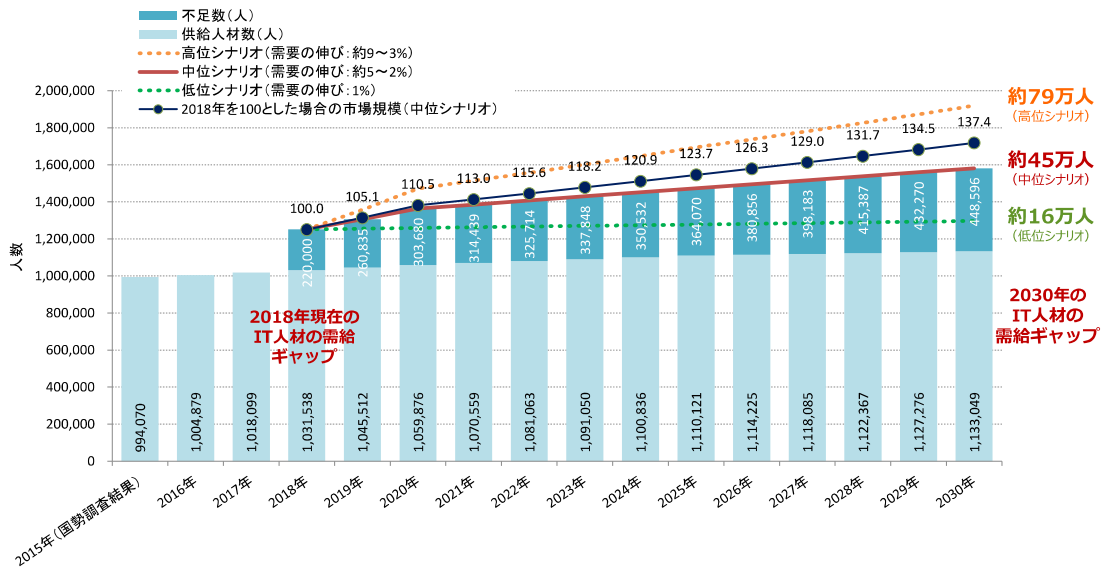


図 3-11 IT人材需給に関する主要試算結果①②③の対比

(生産性上昇率 0.7%、IT 需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

(出所) 2015 年は総務省「平成 27 年国勢調査」によるもの、
2016 年以降は試算結果をもとにみずほ情報総研作成

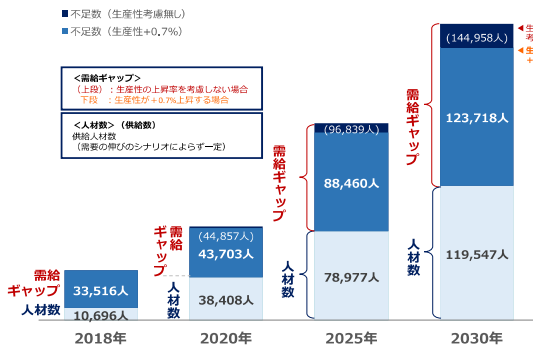


図 4-5 AI 人材全体の需給についての試算結果①
(AI 需要の伸び「平均」、生産性上昇率「0.0%」「0.7%」)

(出所) 試算結果をもとにみずほ情報総研作成

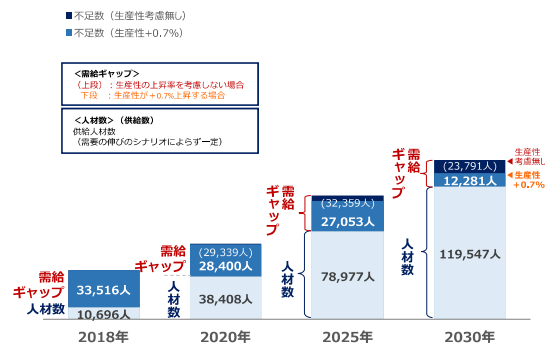
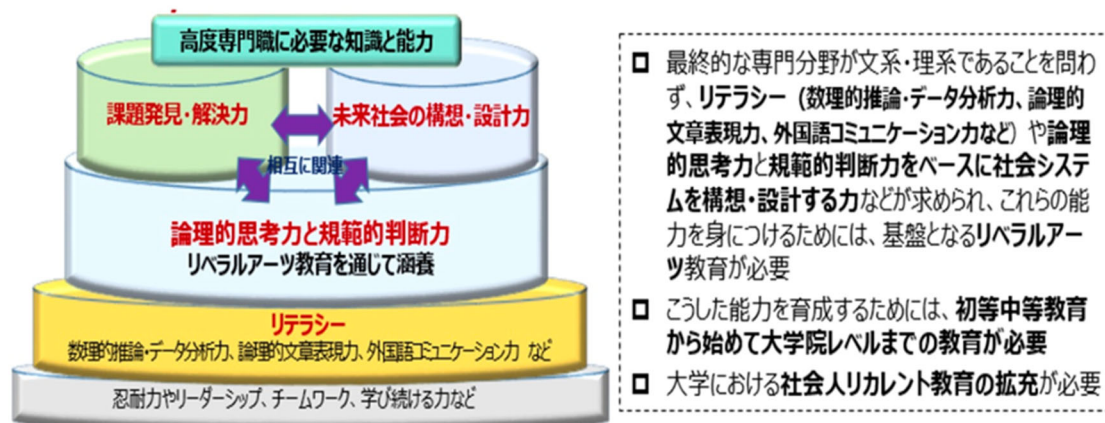


図 4-6 AI 人材全体の需給についての試算結果②
(AI 需要の伸び「低位」、生産性上昇率「0.0%」「0.7%」)

(出所) 試算結果をもとにみずほ情報総研作成

【資料 6】

【図表 2 : Society 5.0 に求められる人材の能力と大学教育】



【出典：採用と大学教育の未来に関する産学協議会「中間とりまとめと共同提言」2019年4月22日】

【資料 7】

○ 将来展望を踏まえた「総合知」の必要性 (p.10)

世界の研究や技術開発の目的の軸足が、well-beingに移りつつあるが、VUCA※¹の時代において、世界を取り巻く「パラダイム」の変化の予兆は、これにとどまるとも言い難い。我が国のみならず、世界各国も「パラダイム」を創出し、また、「パラダイム」の変化をいち早く察し、世界をリードできる「ターゲット」を探り出し、国や社会を挙げて推進することを目指している。※²



※¹ Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧) の頭文字をとった言葉

※² 欧州では、Horizon Europe (EU)、ハイテク戦略2025(独)、産業戦略(英)など、ミッション志向型の政策に取り組む動きあり
米国では、関係各機関の設立目標が、ミッションそのものとなっている

- 資源やエネルギーに乏しく、耕作可能な面積も大きくなく、地震や火山噴火、台風などの自然災害の頻度が高く、言語体系も特異であり、かつ、人口減少が始まっている我が国においては、科学技術・イノベーションの競争力をぬき、世界をリードできる「ターゲット」を探り出すことは困難である。
- その一方で、自然科学系を中心とした「専門知」のみで、打開し続けることは極めて難しい。ルール形成力の劣後、新技術・新製品の社会受容性の低下、社会実装の停滞等の面で、すでに産業競争力を低下させる要因となっている。



- 我が国の「知」の土台や構造を、世界の「パラダイム」の変化を察し、世界をリードし国家的な戦略に位置づけられる「ターゲット」を探り出すことに資するものへと転換可能とすることを、目指す必要がある。
この「ターゲット」に向けた課題解決策を見出すことにも資するものへと転換可能とすることも、目指す必要がある。
- 「総合知」の基本的考え方や、戦略的な推進方策自体も、この観点に十分に広えられるかを問い続け、時代の潮流とともに不断に見直す必要がある。

○ 「総合知」の基本的考え方 (p.13)

我が国の科学技術やイノベーションが様々な課題へ適切に対応し、世界に伍していくためには、「総合知」すなわち、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことが不可欠である。多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことであり、新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

総合知とは

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことである。
- 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。
これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

○ 戦略的な推進方策において留意すべき点 (p.19)

総合知の活用は、それ自身が目的ではなく、新たな価値の創造や課題解決により社会を変革するための手段である。また、「総合知」の概念は、現状では十分に社会に浸透していない上に、時代とともに変化することも予想される。これらの認識の下、総合知の活用を推進するにあたって留意すべき点を以下のように整理した。

専門知の力なくして課題解決は困難であるため、専門知を疎かにしてはならない。また、融合することが目的ではないことから、「表層」的な文理融合にしてはならない。また、専門領域の更なる細分化を引き起こしかねない、「総合知」学なるものを設けることや、競争的研究費に「総合知」区分を設けることを期待してはならない。

これらのことをふまえ、段階的に進められるように戦略的な推進方策を設計する必要がある。また、総合知の基本的考え方も、時代の潮流に合わせて見直す必要がある。

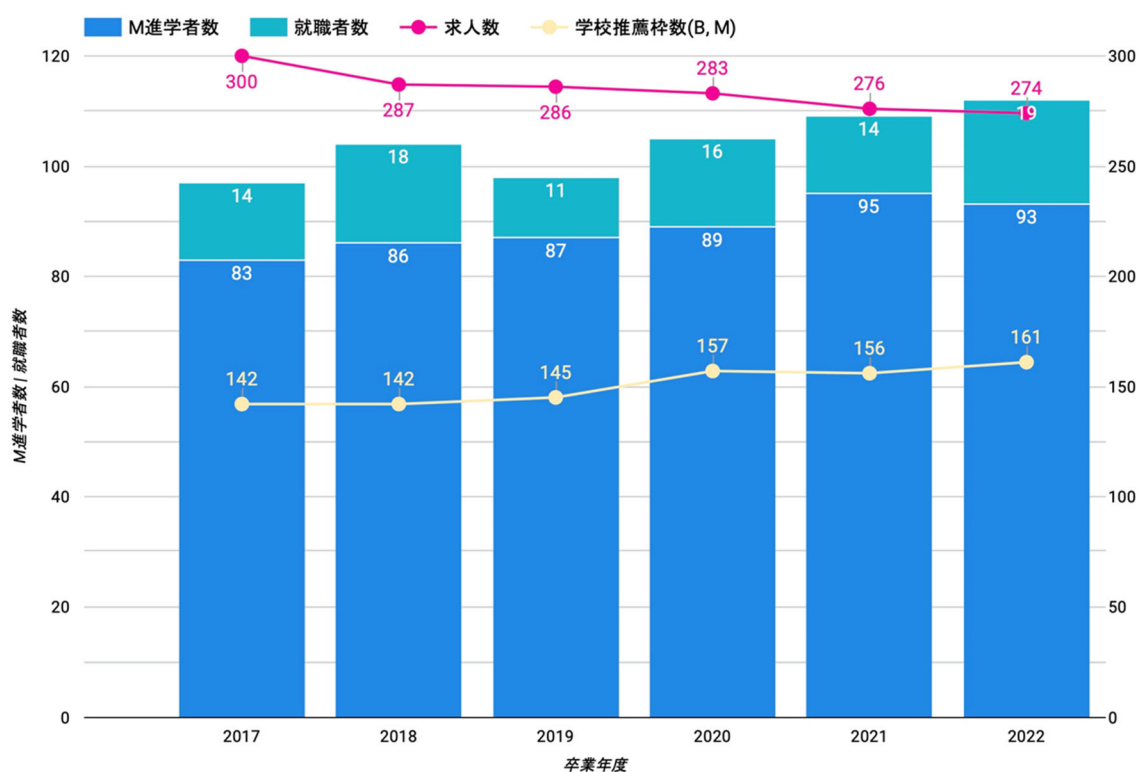
総合知の活用を推進するにあたって留意すべき点

- ★ 「専門知」を疎かにしない
- ★ “表層”的な文理融合にしない
- ★ 専門領域のさらなる細分化を引き起さない
- ☆ 方策は、段階的に進められるように設計する
- ☆ 基本的考え方も、時代の潮流の変化に対応

- 研究開発事業において、人文・社会科学の関係者が入ることのみを「総合知」の要件とすることは期待するものではない。
- 競争的研究費において「総合知」区分を設けるようなことは期待するものではない。
- 「総合知」学なるものを設けたり、将来ある若手の貴重な時間をその“座学”に費やしたりすることを期待するものではない。

【出所：『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進す方策 中間とりまとめ』（2022. 3, 内閣府科学技術イノベーション推進事務局）】

【資料 8】



卒業年度	卒業者数	進学者数 (修士課程)	就職者数	就職 (企業)	求人数	学校推薦 枠数(B, M)
2017	99	83	14	14	300	142
2018	107	86	18	18	287	142
2019	99	87	11	11	286	145
2020	107	89	16	16	283	157
2021	114	95	14	13	276	156
2022	115	93	19	19	274	161

【資料9】

以下の各問について、貴社（人事担当者様）の考えをお聞かせください。

貴社名（ ）

【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。

1. 非常に興味がある
2. 興味がある
3. 興味がない

【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。今回の改組に対して興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください。

【複数選択可能】

1. 専攻分野を超えた教育研究環境の構築
2. システム情報学の更なる発展への期待
3. 養成される学生への期待
4. 社会ニーズへの対応力強化
5. 共同研究に向けた期待
6. その他（以下に記入してください）

【問3】一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。

（俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力）

1. 非常に必要性を感じる
2. 必要性を感じる
- 3.それほど必要性を感じない
4. 必要性を感じない
5. わからない

【問4】【問3】で、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答された方にお聞きします。必要と感じる学生の能力について、特に重要と考えるものを以下の中で3つまで選択してください。

1. 俯瞰力
2. 課題発見力
3. 構想・設計力
4. 問題解決能力

5. 創造力
6. 実行力
7. コミュニケーション力
8. 指導力
9. その他（上の能力に加えて貴社が重要と思うものがあれば以下に記入してください。）

【問5】 貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか。

1. 有効であると思う
2. 有効であるとは思わない
3. 現時点ではわからない

【問6】 本研究科を卒業した学生について、貴社では採用したいと思いませんか。なお、このアンケートは採用の確約をお願いするものではありません。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は特に考えていない
4. わからない

【問7】 【問6】で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。修士課程、博士課程のいずれを修了した学生の採用についてお考えでしょうか。

1. 修士課程修了学生
2. 博士課程修了学生
3. 1, 2 いずれも

【問8】 一専攻化後のシステム情報学研究科に対して期待、希望すること等がありましたら、自由に記述願います。